令和5年度(2023 年度)

吹田市立男女共同参画センター調査研究報告

デートDV予防啓発出前授業開始から 10 年を超えて

令和7年(2025 年)2月

吹 田 市

目次

1 調査研究の背景及び目的……3

2 調査研究の対象……3

3 調査研究の方法……3

4 中学生向けデートDV予防啓発出前授業の概要……4

（1） 若い世代（中学生）を対象に実施

（2） 大学生ボランティアが伝えるスタイルを採用

（3） 国が取り組む「生命（いのち）の安全教育」との関係

5 出前授業の具体的な内容……5

（1） 授業の目的

（2） 授業の内容（流れとロールプレイのシナリオ）

（3） 工夫している点……7

（4） ユースリーダー（大学生ボランティア）養成講座……8

（5） 出前授業の 11 年間の変化～運営体制と授業内容～……9

6 出前授業の実施状況とアンケート等…… 10

（1） 11 年間の実績〈平成 24 年度（2012 年度）～令和4年度（2022 年度）〉

（2） アンケート結果〈令和2年度（2020 年度）～令和4年度（2022 年度）〉……11

（3） 生徒及び先生からの感想〈令和4年度（2022 年度）分から〉…… 12

① 生徒からの感想

② 先生からの感想

（4） 生徒からの質問と担当講師からの回答〈令和4年度（2022 年度）分から〉…… 14

補足資料 ： 本市が行うその他のDV予防啓発事業について

（1） W（ダブル）リボンプロジェクト

（2） すいたストップDVステーション

7 関係者からの寄稿等……18

（1）“専門家の不在”～DV 支援 25 年間の現場から見えてきたこと～

特定非営利活動法人 湘南(しょうなん)DVサポートセンター理事長

瀧田 信之(たきた のぶゆき)さん

（2）デートDV防止教育の現状と課題……22

立命館大学非常勤講師、DV加害者教育プログラムNOVO運営者

伊田 広行(いだ ひろゆき)さん

（3）ユースリーダー活動を通して学んだこと……25

吹田市立男女共同参画センター 現役ユースリーダー

髙木 良悟(たかぎ りょうご)さん

（4）元ユースリーダー座談会 ～今振り返って思うこと～……26

8 今後に向けての課題……30

（1）時間の制約

（2）自分事と捉えてもらうための工夫

（3）大学生ユースリーダーの養成

9 補足 ： 令和5年度(2023 年度)の取組……31

（1）ユースリーダー養成講座の企画を委託から直営に変更

（2）中学校への案内の強化と令和5年度(2023 年度)の実績

（3）ユースリーダー養成講座実績

（4）出前授業の評価についての教員向けアンケート

1 調査研究の背景及び目的

吹田市立男女共同参画センターでは、平成 24 年度(2012 年度)から、中学生を対象に、デートDV予防啓発出前授業を開始しました。分かりやすく、身近な問題として伝えていくために、ユースリーダー(大学生ボランティア)とともに授業を行うプログラムにより、外部講師とともに取り組んでいます。第4次すいた男女共同参画プラン(2018～2022)において、初めて、目標値として市立中学校全 18 校での実施を掲げ、第5次すいた男女共同参画プラン(2023～2025)においても引き続き目標として掲げています。デートDV予防啓発出前授業は、当センターの主な取組のひとつとなっています。

11 年間に及ぶ中学生向けデートDV予防啓発出前授業の取組を振り返り、今後の発展に役立てていくため、本調査研究を実施します。

なお、本調査研究は、吹田市立男女共同参画センター条例第3条に基づき、男女共同参画の推進に関わる課題について調査や研究を実施するものです。

中学校でのデートDV予防啓発出前授業 (令和6年(2024 年))

2 調査研究の対象

当センターが平成 24 年度(2012 年度)～令和4年度(2022 年度)に吹田市立中学校で行ったデートDV予防啓発出前授業及びそれに関する取組を、調査研究の対象とします。(計 11 年間)

3 調査研究の方法

中学生向けデートDV予防啓発出前授業について、その内容や活動量、アンケート結果等を整理して振り返り、成果等を検証しました。また、デートDV予防啓発に関する専門性を持つ方々に、この取組の必要性や啓発に当たって大切なこと、加えて本市の取組の評価等について原稿執筆を依頼するほか、ユースリーダーに自身の活動について執筆及び座談会形式での取材を依頼し、それらを取りまとめました。

4 中学生向けデートDV予防啓発出前授業の概要

(1) 若い世代(中学生)を対象に実施

配偶者や交際相手など身近な者からの暴力(DV)、性犯罪・性暴力、職場等におけるハラスメント、ストーカー行為等は、犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であり、男女共同参画社会を形成していく上で、社会において克服すべき課題です。

吹田市立男女共同参画センターでは、成人を対象としたDV予防啓発の取組も行っていますが、平成 22 年度(2010 年度)から、市内の高校生及び大学生を対象に「交際相手からの暴力」であるデートDV予防啓発に関する出前授業を実施してきました。受講後に提出してもらうアンケートやレポートからは、どの学生からも高い関心を持ったことがうかがわれ、より若い年齢での受講を望む声も多くありました。平成 24 年度(2012 年度)からは対象年齢を拡大し、市内の中学生を対象とした出前授業を実施することになりました。

暴力そのものの根絶のためには予防に重点をおいた取組が必要です。若い世代に正しい知識と意識を持ってもらい、デートDVの被害者にも、加害者にも、傍観者にもならず、対等な人間関係を築いていけることを目指し、継続して取り組んでいます。

(2) 大学生ボランティアが伝えるスタイルを採用

当センターのデートDV予防啓発出前授業は、中学生と近い目線で話せる大学生ボランティアとともに実施しているのが特徴です。大学生ボランティアを「ユースリーダー」と呼んでいます。ユースリーダーとともに取り組む中学生向けデートDV予防啓発出前授業は、平成 24 年度(2012 年度)に、特定非営利活動法人湘南DVサポートセンターに委託する形で始まりました。

ユースリーダーは生徒の前に立ち、ロールプレイ(劇)や自身の経験を通して、対等な人間関係を築くためにどうすれば良いかを伝えます。中学生のロールモデルとなり、メッセージを届けることで、デートDVの問題をより身近なことと感じてもらうことができ、効果的な啓発となっています。

※ 特定非営利活動法人湘南DVサポートセンターは、全国的にも早くから中学生向けのデートDV予防啓発を始めた団体です。吹田市では、中学生向けデートDV予防啓発授業の開始時期から、ユースリーダーの養成と出前授業を湘南DVサポートセンターに委託していました。

令和2年度(2020 年度)からは、出前授業の講師を伊田広行さん(立命館大学非常勤講師、DV加害者教育プログラムNOVO運営者)にも務めてもらうようになりました。

(3) 国が取り組む「生命(いのち)の安全教育」との関係

国では、令和2年(2020 年)に「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」を決定し、令和2年(2020 年)～同4年(2022 年)を集中強化期間、その後、令和5年(2023 年)～同7年(2025 年)を更なる集中強化期間としました。内閣府と文部科学省は、連携し、子供たちが性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないよう、令和3年(2021 年)4月に、発達段階に応じた「生命(いのち)の安全教育」教材及び指導の手引きを公表しました。令和5年度(2023 年度)からは、全国の学校などでの教材及び指導の手引きの積極的な活用を推進しています。デートDVは、中学生向け教材等に取り上げられています。

5 出前授業の具体的な内容

吹田市立男女共同参画センターでは、毎年春に、吹田市立中学校全 18 校に向けて、デートDV予防啓発出前授業の活用について案内しています。そして、中学校からの申込を受け、中学校が希望する学年に対して実施しています。

令和5年度（2023 年度）時点の出前授業の具体的な内容を紹介します。

（1） 授業の目的

日常の何気ない言動の中に暴力に該当するものや、暴力につながりかねないものが含まれていることへの気付きを促すことにより、自分自身のデートDV被害もしくは加害、自分の身の回りにあるデートDVに気付くことを目的としています。併せて、暴力を受けたときの心理やその後の影響を知ることによって、若い世代が暴力に関わらず、対等な人間関係を築いていくことを目指します。

（2） 授業の内容（流れとロールプレイのシナリオ）

出前授業の流れ（50 分）

1） 導入
- ・自己紹介
  （吹田市立男女共同参画センター、講師、ユースリーダー）
- ・授業の目的、プログラムの説明
- ・ルール説明

2） アイスブレイク・・体を使って表現しよう

3） 暴力って何だろう？・・5つの暴力、暴力の構造

4） 身近に潜む暴力について・・
  ロールプレイ（劇）を見てどこが暴力か考えてみよう

5） 対等な人間関係を育むために
- ・自尊心について
- ・アサーション（お互いを尊重した伝え方）

6） ユースリーダーからメッセージ

7） まとめ、相談先の情報提供

授業では、生徒が安心して参加できるように、ルールを設けています。

- ・ 全員参加。ただし、暴力の話を扱うので、つらい場合は席を外しても構わない。
- ・ 他の生徒の発言を批判したり冷やかしたりしない。
- ・ 授業で出た意見は授業内だけで扱うこと。外に持ち出さない。

ルール説明の後はアイスブレイクで体と心をほぐします。生徒には、質問に対する答えを、言葉を使わず体で表

現してもらいます。例えば、自身の趣味や部活動などを体で表現してもらいます。最後の質問は「あなたの思う暴力とは？」です。殴る蹴るなどを体で表現する生徒、また、言葉の暴力を表現してくれる生徒もいます。ここから殴る蹴るだけではなく、言葉や束縛による暴力など様々な暴力があることについて解説していきます。

続いて、身近に潜む暴力の事例（ロールプレイ）から、どこが暴力なのか、どういう点で暴力なのか、どうすれば暴力にならないのかを考えます。暴力の事例は、若い世代がデートDVを自分の問題として捉えやすい内容とし、ユースリーダーがロールプレイ（劇）で演じます。嫌なことを我慢し続けていると自尊心が失われていきます。我慢しすぎず、自分の気持ちを暴力的にならずに穏やかに伝えて、相手の意見を聞くコミュニケーション方法（アサーション）を学びます。更に、ユースリーダーが自身の経験に基づくメッセージを伝え、今後のヒントにしてもらいます。最後に、困ったときの相談窓口を伝えて終わります。

ユースリーダーが考えたロールプレイシナリオ

【待ち合わせ】

A ： ごめん。お待たせ！

B ： おっそいな～

A ： ちゃんと 5 分前につく電車に乗ってんけど･･･電車が遅れてて･･･

B ： 女は男より前に来て待ってるんが常識やろ。ほんま何やらしても鈍くさいな。

A ： ご、ごめん･･･。

B ： まぁええわ。行くで。

――――――ピコン♪（メッセージ着信が鳴る）――――――

B ： 誰から？見せてや。

A ： え･･･

B ： 何？見せられへんの？恋人やったら見せて当然ちゃう？

A ： それなら･･･（と、仕方なく見せる）

B ： お前、なに俺以外の男とやり取りしてんの？はぁ（ため息）･･･遅れたんもコイツとやり取りしてたから？

A ： え、違うし･･ただの幼なじみやけど･･･

B ： ん！？お前は俺と付き合ってんねんから、他の男と連絡取る必要ないやん。

A ： ごめん･･･（うつむいて落ち込む）

B ： 何？俺なんか間違ってる？！好きやから言ってるんやで。
Aは世の中のこと何も知らんし、変な男にだまされへんか心配やわ。俺が守ったるから俺の言うことだけ聞いとけばいいねん。

A. ： う、うん･･･。

――――どこが暴力だと思いますか。

（3）工夫している点

＊　当センターの授業では、恋愛関係に限らず対等な人間関係を築く上で必要な知識として、暴力とは何かについてだけでなく、暴力的にならずに自分の気持ちを伝えるコミュニケーションについても学びます。暴力は男女間だけにあるのではなく、友達関係、親と子、先生と生徒、先輩と後輩、上司と部下など、様々な関係性において存在します。また、恋愛は男女間だけではないし、そもそも恋愛は、しても、しなくても、興味があっても、なくても良いと説明し、多様な価値観を知ってもらう機会にもしています。

＊　理解されやすく効果的なものとなるようロールプレイやワークを取り入れ、身近に潜む暴力について、どこが暴力なのか、どうすれば暴力にならないのかを、生徒に考えてもらいます。授業後のアンケートでは、相手の交友関係を制限したり、メール等をチェックしたりする行為が、デートDVに該当すると思わなかったという感想が多く見られます。出前授業により大切な学びを提供できていると実感しています。

＊　授業の後半に、ユースリーダーが自身の体験に基づくメッセージを届けています。「大学生になってデートDVについて学んだことで、過去の恋愛における出来事が実はデートDVだったことに気付いた。知識を持っていたら相手にやめてと言えたかもしれない」、「恋人から何十件もメッセージを受けている友達を見て、これもデートDVにつながると気付けた」という自身の体験について語り、授業で学んだことを今後に生かしてほしいと中学生に伝えています。また、「中学生・高校生の頃は、学校があまり楽しくないと思っていたけれど、大学生になった今、いろいろな出会いがあって、今は楽しく過ごせている。今の環境が全てとは思わないでほしい」と伝えるユースリーダーもいるなど、中学生に伝えたいことを一生懸命話してくれます。ユースリーダーからのメッセージは生徒の心に残るようです。

＊　手に取りやすい A6 サイズのパンフレット「Be　myself」を作成し、相談先の案内をしています。困ったときは誰かに相談することを繰り返し伝えています。

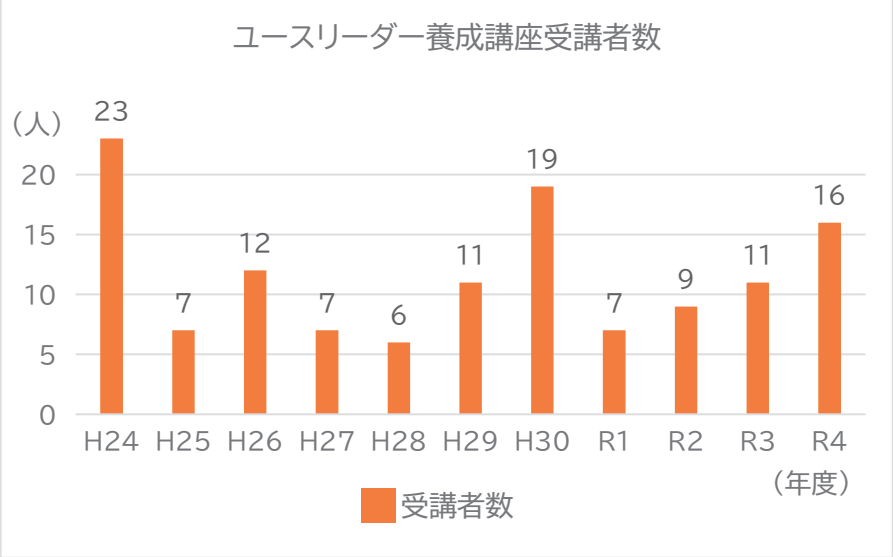
ロールプレイの実演

ロールプレイ後のワーク

（いずれも令和6年（2024 年））

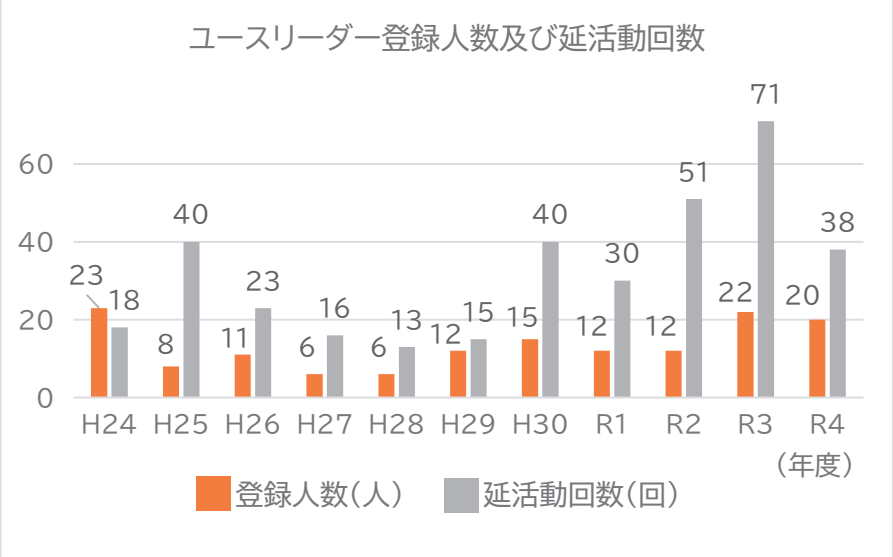
（4） ユースリーダー（大学生ボランティア）養成講座

ユースリーダーとして活動するための事前研修として年1回おおむね8月頃に、ユースリーダー養成講座を開催しています。専門的な予防啓発講座をとおして、まず大学生自身がデートDVに関する知識を深め、身の周りにあるDV（暴力）や自分自身の被害・加害に気付く視点を養います。暴力に対する敏感な視点を持つことで、デートDVの被害者、加害者、傍観者にならないことはもとより、更に一歩進んで友人の支えとなり、また、社会に発信していける人材を育てます。



大学生が受講しやすい日程、日数及び時間などを検討し、毎年開催しています。

市内の大学に協力いただき、募集案内をしていますが、受講者が集まりにくいことが課題です。



出前授業実施校数の増加に伴い、活動数も増加しています。

ユースリーダーとしての活動期間は、基本的に大学在学中に限られるため、継続的に新メンバーの加入が必要です。

（5）出前授業の 11 年間の変化～運営体制と授業内容～

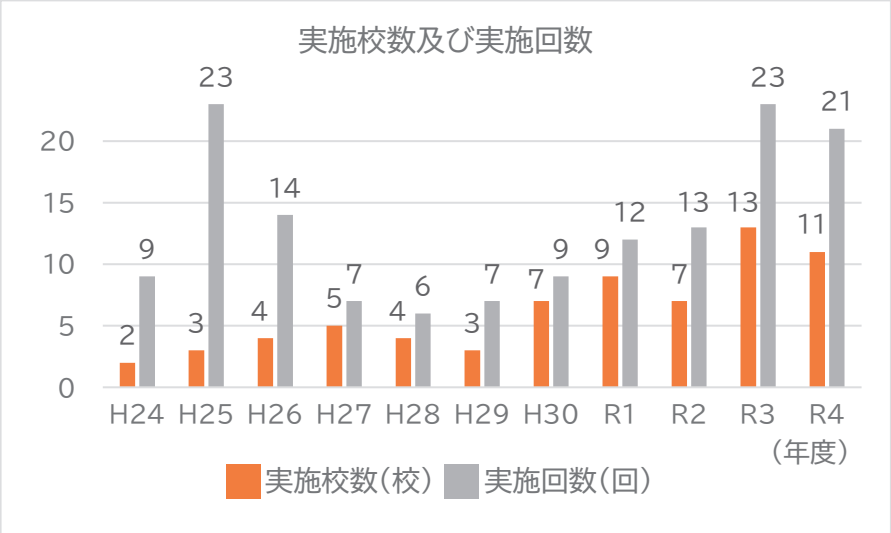
年度	運営体制	授業内容
平成 24 年 （2012 年）	＊特定非営利活動法人湘南DVサポートセンターとともに、ユースリーダー（大学生ボランティア）の養成と、ユースリーダーとともに実施する中学生向けデートDV予防啓発出前授業を開始	
平成 27 年 （2015 年）		＊ロールプレイ（劇）を演じる前に、「恋愛には様々な形がありますが、今回は男女のカップルを例に演じます」と説明を追加
平成 29 年 （2017 年）	＊湘南DVサポートセンター職員に加え、男女共同参画センター職員も授業の講師を担当	
令和元年 （2019 年）		＊ロールプレイ（劇）の役名を「○○くん、○○ちゃん」から、性別を固定しない「Aさん、Bさん」へ変更 ＊A6サイズの啓発リーフレット「Be myself（びぃまいせるふ）（制作 ： NPO 法人エンパワメントかながわ）」を作成し・配付開始
令和2年 （2020 年）	＊立命館大学非常勤講師／DV加害者教育プログラムNOVO運営者　伊田広行さん（※）も授業の講師を担当	＊授業の後半に、ユースリーダーから中学生へ、自身の経験を踏まえたメッセージを追加 ＊授業前後の変化を確認するために授業アンケートの内容を改良
令和3年 （2021 年）		＊感染症拡大防止のため、オンライン会議ツール「Teams」を使って訪問先中学校内の拠点から各クラスにリアル配信する形での授業を実施 ＊より主体的に考えてもらえるように、生徒同士のグループワークを実施 ＊授業をより良いものにするため、先生への事後アンケートを開始
令和4年 （2022 年）	＊湘南DVサポートセンターとともに実施する体制は、この年度で終了	＊生徒同士のグループワークの時間を拡大
令和5年 （2023 年）	＊湘南DVサポートセンターとともに実施してきた経験を生かし、ユースリーダー養成講座の内容を男女共同参画センターが企画	

※平成 24 年度（2012 年度）から高校生向けデートDV出前授業の講師を、令和2年度（2020 年度）からは中学生向けの出前授業の講師も務めていただいています。

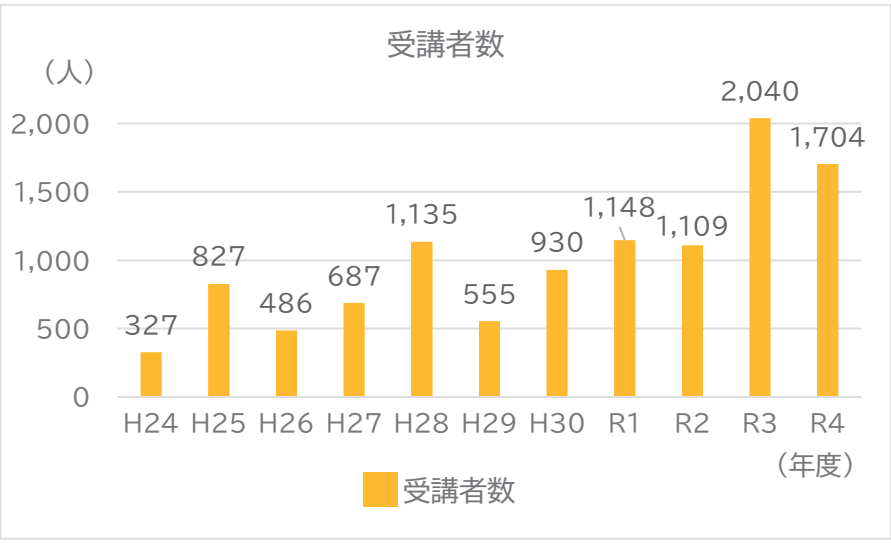
6 出前授業の実施状況とアンケート等

(1) 11 年間の実績〈平成 24 年度(2012 年度)～令和4年度(2022 年度)〉

※実施回数…授業は学年単位、クラス単位、2回に分けての実施方法があり、実施回数の合計を示しています。

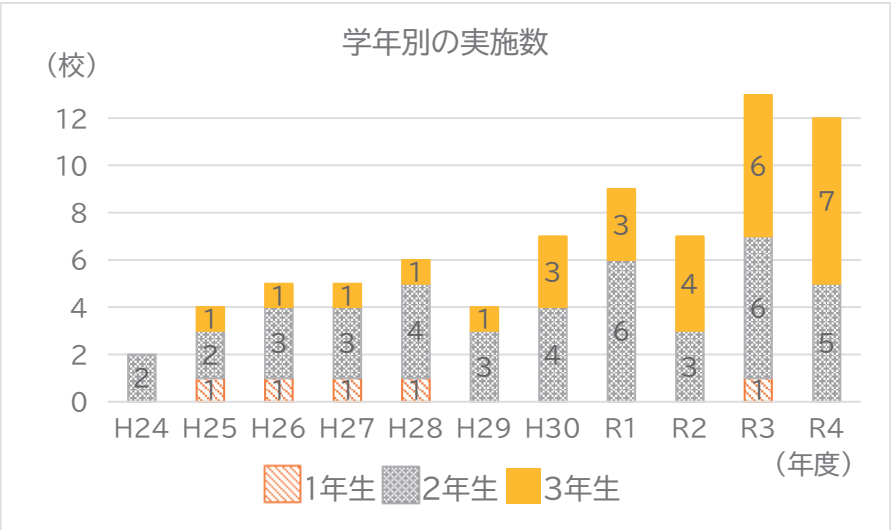


当初はクラス単位での実施が基本でしたが、平成26年度(2014年度)からは学年単位でも実施していくことになりました。令和3年度(2021 年度)には年間の実施校数が10校を超えました。



実施校数の増加とともに受講者数も増加しました。

コロナ禍でも継続して実施しました。中止になることもありましたが、オンラインを活用した配信授業も実施しました。



学校が希望する学年に対して実施します。当初から2年生での実施が多く、1年生での実施は少数です。

近年は3年生での実施も増加しています。

同じ学校で2学年に対して実施することもありました(2校としてカウント)。

（2） アンケート結果〈令和2年度（2020 年度）～令和4年度（2022 年度）〉

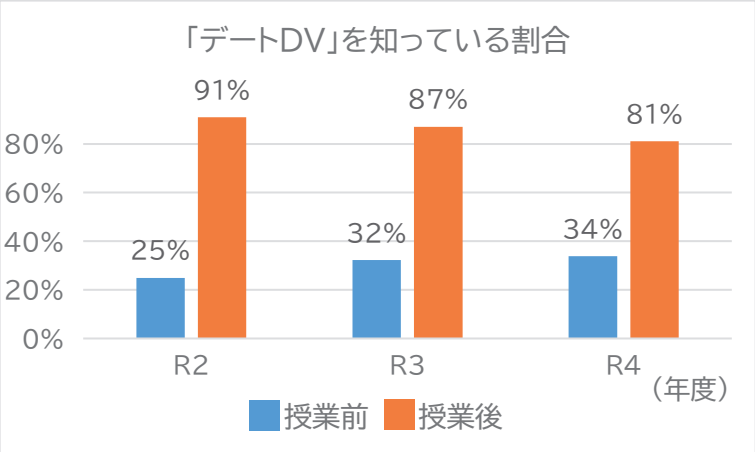
令和2年（2020 年）から生徒向けアンケートの実施方法を変更しました。授業の効果を確認するため、授業前と授業後に同じ内容の質問をしました。

【質問内容】

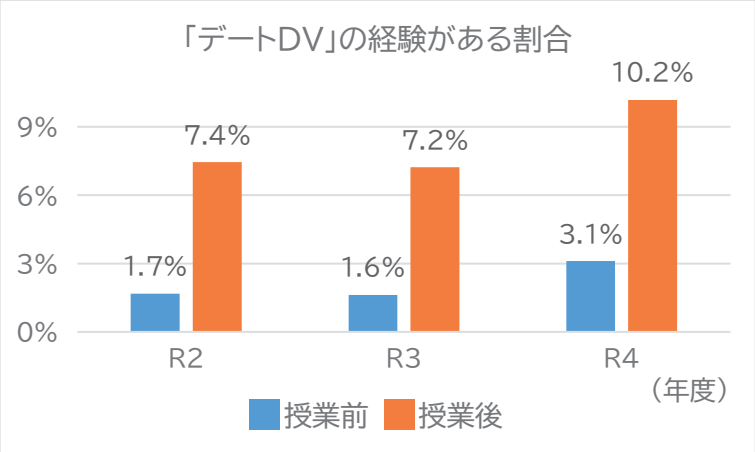
・デートDVという言葉を知っているか（意味が分かるか）

・デートDVの加害経験、もしくは被害経験があるか

・誰かに相談することは恥ずかしいことだと思うか

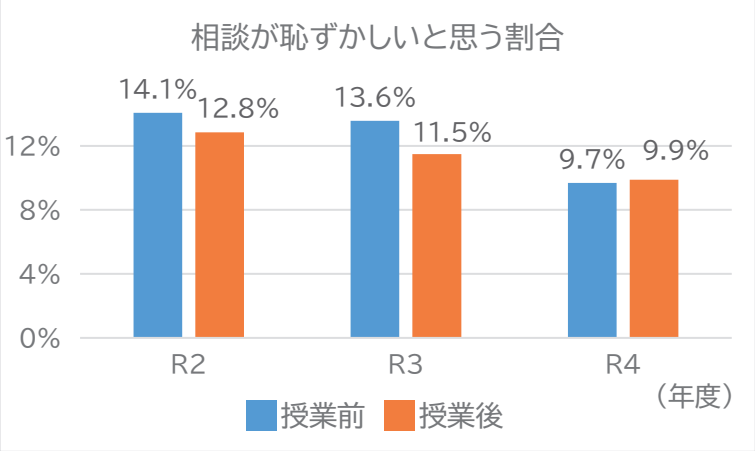


授業を受ける前は3割程度でしたが、授業後は大きく増えています。授業の意義が分かります。



授業の前後で認識が変わる人がいることが分かりました。

授業後の感想では、「束縛が暴力になると思っていなかった」、「デートDVのようなことをしてしまっていたことに気付いた」との声がありました。



相談を恥ずかしいと思う割合は低く、「相談する」という手段を実際に利用できるものとして受け入れているのではないかと思います。

一人で抱え込まず、友達や家族、先生への相談や、行政のSNS相談などの利用を呼びかけています。

（3） 生徒及び先生からの感想〈令和4年度（2022 年度）分から〉

① 生徒からの感想

＊DVは体を傷付けることだと思っていたけれど、他にも精神的、社会的、経済的、性的暴力など様々な暴力があることが分かりました。意外と身近で起こることだと知りました。

＊好きという気持ちが簡単にDVにつながってしまうことを知りました。加害者にも、被害者にも、傍観者にもならないようにしたいです。

＊恋人ができたら、まず、自分は絶対暴力はしない。もし相手にされたら「やめて」と言おうと思いました。

＊班でグループワークがあったので楽しく学べて良かったです。デートDVは自分には関係ない話だと思っていましたが、授業を受けて身近にあるものだと感じました。

＊大学生が演技をしてくれて、内容をより分かりやすくしてくれて良かったです。デートDVのような暴力は、付き合っている人だけでなく友達との間でも起きることを知りました。

＊デートDVの事例を見て、ありえない人がいることが分かりました。

＊「男だから」とか「女だから」といって相手にいろいろなことを要求するのは違うのではないかと思いました。

＊DVは「男から女へ」のイメージが強かったので、「女から男へ」の話を聞いて意外に思いました。

＊相手の思っていることと自分の思っていることは、必ず一緒とは限らないので相手を傷付けないように気を付けたいです。

＊お互いに気を付けなかったら、相手を傷付ける可能性があることが分かりました。

＊恋人に限らず、お互いを尊重し合える関係性を作ることが大切だと改めて感じました。

＊人には、恋人、家族、友人であっても踏み込まれたくない境界線があり、距離感を保つことは、とても大切で、同時にとても難しいことだと感じました。

＊弟や妹に対して、口が悪くなってしまうときがあるので、相手のことを考えて、言葉をかけたいと思いました。

＊親だから、恋人だからって、スマホとかを見せなくていいことを初めて知りましたし、安心しました。

＊束縛するのも相手の許可があれば少しはいいと思います。「あんまり（他の異性と）話さないでね」とかなら、自分はされてもいいと思いました。

＊人とのコミュニケーションにおいて、不満に感じることがあっても、暴力で解決しようとせずにお互いの気持ちを尊重して、話し合いをすることが大切だと思いました。

＊SNSでは表情が分からないので、相手がどう思うかを考えてから送ろうと思いました。

＊将来、自分に彼女ができたとき、相手のことを気にしすぎて疲れそうだと思いました。どこからが暴力（デートDV）になるか、判断が難しそうだと思いました。

＊交際するということが面倒くさいと思いました。

＊最後の大学生の実体験の話が印象的でした。言われた言葉の表面だけで決めつけたりせず、相手が何を思ってその言葉を発したのか中身を知ろうと思えました。

＊恋愛で嫌なことがあれば相談する場所があることを知りました。

＊友達から相談を受けたときに、きちんと相談に乗れるようになろうと思いました。

＊自分が被害者になってしまったときは、一人で抱え込まずに誰かに相談しようと思いました。

② 先生からの感想

＊大学生ユースリーダーがハキハキとしていて、説明も分かりやすく、丁寧で良かったです。生徒も楽しみながら、時には真剣にメリハリを持って取り組めていました。

＊身体的暴力だけでなく、経済的なものや時間的拘束も大きな意味で言えば暴力になるという話は自分もハッとさせられましたし、生徒たちにとっても新たな発見だったように思います。

＊カップル間の暴力がテーマですが、友達や家族との間でも同じだと話してくださったので、「人との接し方」と捉えて、生徒にとって考えやすかったように感じました。

＊性的暴力に関して説明してくださったのが良かったです。今後もデートDVの内容に取り入れてもらえれば幸いです。

＊大学生が演じるデートDVのロールプレイ（劇）が生徒にとって分かりやすい例だったので、考えやすくて良かったです。

＊ロールプレイの原稿をあらかじめ生徒に渡しておいて、生徒に演じさせるのもありだと思いました。

＊意見共有の場があり、生徒たちはのびのびと発言していました。授業時間の関係上難しいですが、もう少しグループで話し合う時間があっても良いと感じました。

＊ホワイトボードの文字が見えづらかったので、文字をもう少し太く大きくするか、プロジェクターを使っても良いのではと感じました。

＊リモートで行う際は、各教室の生徒の様子が見えない分、ワークの進め方は特に丁寧に指示してもらえると良いと思います。可能であれば大学生を各クラス1人以上配置してほしいです。

（4） 生徒からの質問と担当講師からの回答〈令和4年度（2022 年度）分から〉

授業後に生徒から届いた質問に立命館大学非常勤講師の伊田広行先生が回答しました。伊田先生は、令和2年度（2020 年度）から吹田市立男女共同参画センターの中学生向けデートDV予防啓発出前授業に同行している外部講師です。

自分や友達がデートDV被害に遭ったら、誰に相談すればいいですか？

まずは友達や先生（担任や保健室、人権担当の先生）、親など信頼できる身近な人に相談してみてください。男女共同参画センターやインターネットで匿名で相談してもいいです。とにかく一人で悩まず誰かに相談してみてください。

言いにくいかもしれませんが、「こういうことをされていて、ひょっとしたらDVだと思うんだけどどうしたらいいかな？」と言ってみてください。

友達がDVされていたら、「大丈夫？」と声をかけてあげてください。何が困っているのか、どうしたいのか、気持ちを聞いてあげてください。そして、一緒に保健室などに相談に行ってみてはどうでしょう。説教的にならず、一緒に考えていくようにしてあげてください。「束縛も愛情だよ」などと、間違ったことを言わないようにしてください。

デートDVをする相手に嫌だと言ったら怒るんじゃないですか？

怒るかもしれないですね。怒られたら、「私（僕）のこと好きなら、怒るんじゃなくて、ちゃんと聞いてほしい」と言ってみましょう。「良い関係にしたいと思って、勇気を出して話したのに、怒るんだったら話せない。それだと、私たちうまくいかないと思う」と言ってください。相手が良い人で、あなたを大事に思うなら、指摘された点は改善しようと努力し、DV的なことをしなくなり、怒らなくなると思います。

そういう努力をしないで、怒り続けるような人は、危ないし、あなたを大事にしていないので、これからも付き合い続けていくのか考えたほうが良いと思いますよ。

恋人だけじゃなく、友達関係でも、家族関係でも、嫌なことは我慢せずに、「そういうのは嫌だ」と言いましょう。相手が受け止めてくれない場合は、誰かに相談してみてください。

自分で間違っていることを言っているのか分からないときはどうすればいいですか？

「私はこう思うけど、あなたはどう思う？」と相手の意見も対等に聞いて、話し合えばいいと思います。第三者に「どう思う？」と聞いてみてもいいかもしれません。

束縛されることが嫌じゃない場合も、デートDVになりますか？自分はあまり嫌じゃないです。変でしょうか。

束縛といっても程度があって、愛情表現だと感じたらうれしいこともありますよね。問題は、束縛がきつくなって、あなたの「安全、自信、自由、成長」が侵害されることです。例えば、「他の誰ともしゃべるな」などと言われて友達が減ってしまうのは良くないです。塾や部活に行くことを制限されたら成長できないですよね。そういう束縛はやり過ぎです。

連絡のやり取りを「自分以外とはするな」と言って、友人関係を邪魔するのも、「すぐにメールに返事しろ」などむちゃを言うのもダメです。束縛によってあなたの自由が制限されたらダメです。健康的な恋愛は、相手の勉強も部活も、友達関係も、信頼して応援するものです。恋愛によって元気になって、成績も落ちず、友達ともうまくいっていれば、問題ないと思います。

自由を尊重すると周りの人が傷付いたり、成長するけど自由を奪われたりするときは、どちらを優先したらいいですか？

難しい問題ですが、とても良い質問です。

基本的には、自分のために生きることは大事ですが、誰かを傷付ける権利はないので、バランスです。例えば、「何かを食べたい」からその食べたいものを盗むというのはダメでしょう。誰かを傷付けないことは前提とすべきです。しかし、周りの人が「傷付く」と言ってもいろいろです。周りの人の「不当な要求」には合わせる必要はありません。いつも周りの目を優先して自分を我慢するというのは良くないです。自分の自由を尊重しても周りを傷付けないことはできます。

先生やコーチの言うことを聞くと成長するけど、自分の自由が奪われるというようなことがありますよね。この場合は、どっちをどれくらい優先するかです。若いときにはある程度成長のために自分の自由を制限することもあるでしょう。でも、大人になるほど、誰かに導かれるのではなく、自分で決めて自分で成長していくことが必要となってきます。結論は、周りの人もできるだけ傷付けないようにしつつ、自分の成長と自由もどっちもあるようなバランスを見つけていこうということになります。

以上は一般論ですから、あとは具体的に、各ケースでどの要素を重視するかという決断になります。難しいですが、大切なことに気付いてくれたと思います。

性的なDVは、言葉だけでも当てはまるんですか？

はい、相手が嫌がるような性的なことを言うのも暴力です。性的なからかいや冗談も、相手が嫌ならダメです。

同性を好きになってもいいですか？

LGBTQなどについて学んでいると思うし、これからも学び続けてほしいです。そこで示されるように、異性愛も同性愛もその人の個性であって「間違い」とか「ダメなこと」とか「病気」ではないです。だから当然、同性愛の人もいるし、何ら問題ありません。同性でも異性でも好きになっていいです。その上で、好きになったり交際してもいいけれど、自分の思いを押し付けてDVにならないように気を付けましょう。なお、誰にも恋愛感情を持たないのもOKです。

「いじり」と「いじめ」の違いは？

「いじめ」は、強者が弱者を苦しめるもので、人権侵害です。明確に被害者の「安全、自信、自由、成長」を奪うものです。それに対して、「いじり」とは、やる側（強者）がやられる側（弱者）を少し冗談っぽく扱って笑うようなことです。でも、やっている側が「いじり」と思っても、被害者にとって苦しいならそれは「いじめ」です。ということは「いじめ」と「いじり」はつながっていて、程度の違い、やられる側・被害者にとって苦しいかどうかの違いということが言えます。

具体的には、やられている側も笑える、いじる側といじられる側に信頼関係があり、楽しめるなら「問題のない“いじり”」です。でも、「クラスの多数が笑っているので、仕方なくされているほうも笑うしかない、でも内心では少し（あるいはとても）嫌」というのは、「問題のある“いじり”」つまり、「いじめ」の一種になります。

自分が言われたらどうか、言われている人はどうか、想像する力を育てましょう。多くの人は、外見とか動作で笑われるのは嫌なものです。人の劣等感に関わるようなところをいじるのもダメです。

体育で男子1500m走と女子1000m走と男と女に差があるのはジェンダー平等ですか？

今、学校ではそういった「違い」があるところがまだ多いですね。私の考えでは、男子といっても体力はいろいろですし、女子といっても体力はいろいろなので、北欧社会のように、「長距離が得意な人は1500メートルにチャレンジしよう」、「あまり自信がない人は1000メートルの方も選べるよ」というようにして、男女関係なく選べるようにしたらいいと思います。それが私の思う、男女関係なく個性を大事にしたジェンダー平等です。先生やクラスの皆と話し合ってみたらどうでしょうか。

補足資料 ： 本市が行うその他のDV予防啓発事業について

（1） W(ダブル)リボンプロジェクト

DVが起きている家庭では、面前DVなどの子供への暴力も同時に起きていることが少なくありません。吹田市では、DVと児童虐待が密接に関連しているとして、DV防止対策と児童虐待防止対策を一体として進めるため、平成 23 年度(2011 年度)から、女性に対するあらゆる暴力の根絶のシンボルであるパープルリボンと児童虐待防止のシンボルであるオレンジリボンを組み合わせたW(ダブル)リボンマークを考案し、DV防止と児童虐待防止の啓発に取り組んでいます。

国が定める、女性に対する暴力をなくす運動期間が 11 月 12 日～25 日、また児童虐待防止推進月間が 11 月であることから、11 月には、「W(ダブル)リボンプロジェクト in すいた」として講演会や講座などの啓発活動を集中的に行っています。

また、Wリボンマークをピンバッジにしたリボンバッジの販売を年間を通して行っています。売上金の一部が、基金に積み立てられ、中学校でのデートDV予防啓発出前授業にも活用されています。

Wリボンバッジ

（2） すいたストップDVステーション

吹田市では、平成 23 年(2011 年)4月に配偶者暴力相談支援センター機能を持つ「すいたストップDVステーション(DV相談室)」を大阪府内でいち早く設置し、年々増加するDV相談の機能強化を図りました。

被害者の自立生活促進のため、情報提供や助言を行うほか、心理的な専門相談や一時保護施設の利用の手続き、保護命令制度に関する手続き等を支援しています。

“専門家の不在”
～DV 支援 25 年間の現場から見えてきたこと～

瀧田　信之(たきた　のぶゆき) さん

特定非営利活動法人湘南(しょうなん)DVサポートセンター　理事長

若者たちの間で起こる暴力を未然に防ぐためのプログラムを開発し、学生に向けた暴力防止教育を行っている。本市においてデートDV予防啓発出前授業実施にかかるユースリーダーの養成業務を受託(平成 24 年度(2012 年度)～令和4年度(2022 年度))。

はじめに

平成 17 年(2005年)11月、国連大学[1]にて政府機関と協働で若者たちによる暴力予防活動開始。

平成 18 年(2006年)2月、国連大学で公開シンポジウム「女性に対する暴力～暴力を未然に防ぐために～」が開催され、国連における「女性に対する暴力」等の問題の議論を踏まえ、暴力を未然に防止するために何をすべきか、次世代を担う若者たちを交えて話し合った。湘南DVサポートセンター[2]は、これを引き継ぎ、ユースリーダー[3]活動始動を宣言。これが日本におけるデーティング・バイオレンス(以下「デートDV」という。)予防事業とユースリーダーの歴史の始まりです。

1 私とドメスティック・バイオレンスの出会い

1980年代、私は環境問題を次世代の子供たちと考える自然体験教育プログラムを地元神奈川県で実施していました。その中で、アメリカの国立公園のレンジャー[4]の存在を知り、彼らこそが人も動物も植物もあらゆる命を守る存在であると思い、日本にもこのシステムができないかと模索していました。そして、地元の海を守るライフセイバーを養成する教育ができるのではないかと考え、組織づくり、教育、指導を始めました。その活動は後に文部科学省の自然体験活動指導員制度につながることになります。

全国で指導者養成のプログラムを提供する中で思いがけない話を聞きました。ある湖でキャンプの指導をしているときに、参加された方がご自分は安全ではなく、長い間家庭の中で暴力を振るわれているという告白をされたのです。私は狼狽(ろうばい)し、自分には何ができるのか考え始め、様々な機関に指導を求めました。残念ながら25年前の当時は、私の願いを叶(かな)えてくれる行政、大学・研究機関、医療機関は一つもありませんでした。しかし、当時出版されていた専門書に、あるヒントがありました。著者は全て海外の専門家たちでした。日本にはあまり情報がないということが分かり、私はインターネットを通じて海外の専門家とつながり始めました。

仕事は辞め、学生に戻り、海外の研究機関や私のようにNGOを立ち上げている活動家の門をたたきました。それ以来、今でも毎年彼らを訪ね、得た情報を各都道府県のDV支援者養成の場に提供しています。

私自身もカウンセラーとして日々被害者と向き合いました。そして、被害者である女性と子供たちが安全な環境を手に入れ、社会とつながり直すお手伝いをする

[1] 国連の支援を受けた研究機関であり、グローバル課題に関連する研究・教育を行う国際機関。東京都渋谷区。
[2] 瀧田氏が代表を務めるドメスティック・バイオレンス(DV)被害者支援団体。神奈川県藤沢市を拠点に活動。
[3] デートDVについて若者に同じ目線で伝える若者のリーダー。
[4] 国立公園内等で自然環境を保護するために活動する職員。

支援団体、湘南DVサポートセンターを立ち上げました（平成 11 年（1999 年））。

当時、いくつかの女性団体が活動を始めていましたが、皆同じく支援方法を模索していた時代でした。この社会問題を統括する省庁もなく、唯一先駆的に活動していたのが外務省・法務省の外郭団体でした。国連の人権小委員会委員長・国連大学学長であった先生が率いており、アメリカ、アジアから専門家を招へいしていました。これにより、ようやく情報が日本に入り始めていました。私はその講師たちの講習会のお手伝いなどをするようになり、自分自身でも各地で研修を開催するようになりました。

2 平成 18 年（2006年）、デートDV予防授業始まる

国はDVサポート事業が一段落すると、次の支援事業として「デートDV」という用語を使い、若者の間での暴力についての新たな事業を始めるべく予算を組むことになります。

既に世間ではDV支援団体があふれていたので、新たな事業を進めるためにその矛先をデートDVに広げているという若者たちの指摘がありました。

湘南DVサポートセンターは国の依頼を受け暴力予防事業に参入することになりました。国連大学での公開シンポジウム「女性に対する暴力～暴力を未然に防ぐために～」の開催に向けて、活動への参加者を募集しました。平成 17 年（2005年）11月に主に関東の大学生60名が集まり、彼らを4つのグループに分け、4か月間の研究を実施。その成果を発表した平成 18 年（2006年）2月 18 日の公開シンポジウムには、全国から120名の支援者が集まりました。私は彼らの前で、この結果を引き継ぎ、新たにユースリーダー活動を開始することを宣言しました。これがユースリーダーの誕生で、ここからデートDV予防授業が始まりました。

湘南DVサポートセンターとユースリーダーが教育現場で実施するデートDV予防授業の模様を、文科省・内閣府がビデオ化し全国の高等学校に配布したことで、この問題が社会に浸透することになりました。また、国連大学に集まっていた全国の支援団体がユースリーダーの養成を始めました。私たちは、長崎県、佐賀県、鹿児島県、山口県、岡山県、神奈川県、東京都、埼玉県、茨城県、岩手県、青森県、北海道等の女性センターやNPOと連携し、ユースリーダーを養成する研修が各地で始まりました。

東日本大震災直後の平成 23 年（2011年）3月、全国で活躍するユースリーダーによる初めてのシンポジウムを東京都内で開催。そこに吹田市も参画していました。当時、「市」設置の配偶者暴力相談支援センターは稀（まれ）で、それを持つ吹田市の男女共同参画センターから参加されていたセンター長他職員2名の方々から、DVの撲滅、デートDV予防事業に参入するとの力強いメッセージが発信されました。以来、吹田市でのDV支援者養成、ユースリーダー養成に関わり、また、同市の特筆すべき取組である W（ダブル）リボン・プロジェクト[5]の立ち上げにも参加させていただき、現在まで10年以上が経ちます。

3 ユースリーダー養成講座とは

なぜ、ユースリーダーが各地で必要となったのか。先行していた団体に対する行政の評価からも、伝えるスタッフの高齢化と男女比のアンバランスという言葉をよく耳にしました。届ける相手は中・高生の男女が主であって世代の異なるスタッフと彼らとのコミュニケーションはやはり難しく、少しでも年齢の近い「共通言語」を持った大学生、高校生が伝える方がより効果的であることは青少年を対象としたプログラムに共通しています。

この取組において、より専門的な知識や、その背景にあるジェンダー等の社会課題を伝えるには専門家の力を投入する必要もあり、NPO職員や女性センターのスタッフとの協働が望ましい姿です。

また、デートDV予防授業の場にいる多くの男子学生

[5] 女性に対するあらゆる暴力の根絶のシンボルであるパープルリボンと児童虐待防止のシンボルであるオレンジリボンを組み合わせた吹田市独自の「W（ダブル）リボンマーク」を旗印に、「暴力のない安心安全のまち、すいた」の実現を目指す吹田市の取組（平成 23 年度（2011 年度）～）。

が委縮せずにこの問題を素直に捉えられるような雰囲気を作る上で、男性の支援者やユースリーダーの存在は大きく、大切です。加えて、伝える側から批判や排除のメッセージが出た瞬間、聴衆の多くが耳を塞ぎ始めることに、我々は注意しなくてはなりません。

ユースリーダーの養成課程において、参加する大学生や高校生たちになぜこの社会課題の解決に興味を持ったのかを聞く機会があります。その中には「災害等の非常時には女性が被害に遭いやすい性暴力の問題があるから」とピンポイントで示す若者もいれば、一方では「この課題を自身の問題として長年抱えてきたモヤモヤした気持ちを解決したい」、また「福祉や教育に興味があり次世代に伝える人として学びたい」と自分事としてテーマを見出す学生も多かったようです。

4 デートDV予防講座の背景にあるもの

このデートDVという社会問題の背景には、愛着と男性優位の社会を容認してきたジェンダーの問題があります。

カウンセラーとして多くの若者と出会い、実感したことは、人は家庭や地域社会の中で自己、つまりアイデンティティーを確立していくとき、関わってくれる第三者が必要不可欠であるということです。それは家族であり、友人であり、先生であるかもしれません。しかし、誰もが自己確立の体験をうまくできるとは限りません。そのときに周りの人の優しさや、自分が大切にしてもらっているという感覚を得られない人が、愛着に課題を持つのではないかと思います。自信がない、軸がない、自分は愛される存在なのか、人を愛することをできるのかという共通の心理が見られます。

そして社会で生きていくためのコミュニケーションにおいては、自己中心的なコミュニケーション・スキルで生きてきた若者も多くいます。DV、デートDV、児童虐待を問わず、その当事者は、生育歴のどこかで貧困、教育、ジェンダー、差別等の社会の歪(ゆが)みの中で苦しんできた人が多いということも分かり、政府もその予防に力を入れるようになりました。つまり、DV、デートDV、児童虐待は社会病理[6]の分野なのです。

5 ジェンダーとは

日々の私たちは、ありとあらゆるジェンダーに関わる情報にさらされています。テレビや雑誌にはじまり、今では漫画、アニメ、SNSとそのすそ野は際限なく広がっています。中には偏ったバイアス情報も多く、取捨選択する力が大人にも子供にも求められています。多様性、ダイバーシティと言葉は踊りますが、本当の理解は広がっていません。その言葉の意味を正しく解釈し、社会の中で生きる自分に投影するには、やはり教育は欠かせません。特に教育現場での性に関する教育は不足していると言って良いでしょう。性教育とは、人として生きるために必要な基本的な情報のはずですが、いつの間にか語ることができないパンドラの箱となっている地域や学校も見てきました。人体の構造、性感染症予防を学ぶことに留まらず、その先にある愛と性の知識を伝えることが教育です。

6 有害なものの「学び落とし」[7]の重要性

書店の心理学コーナーに暴力の連鎖などという言葉が書かれた書物を見ることがよくありますが、暴力は遺伝でもなければ病気でもないということを理解して予防をすることが大切です。

暴力的環境にあった人が暴力を踏襲する例は確かにありますが、それは環境から学んだことであり、学び落とすチャンスがあることが不可欠です。

つまり予防することが大切であることは変わりませんが、知らず知らずのうちに加害者、被害者になってしまうことを身近な大人から学んでいるのであれば、第三者で暴力を振るわない人と出会うことを通して自己改革をすることが大切です。

デートDV予防講座はこのような既に当事者になっている人へのセラピー的な場であり、学び落としの場でなければなりません。

---

[6] 社会に見られる異常な状態や問題。犯罪、非行など。
[7] 無意識に学んでしまった誤った価値観を、新たな学びによって取り除くこと。

7 誰も取り残さない持続可能な社会とは

未来の子供たちに何を伝えるべきか、どのような社会を残していくかということは「人権」につながるテーマです。

なぜ、ドメスティック・バイオレンスが起こるのか、なぜデートDVが若者間で頻発するのか、なぜ子供への虐待が止まらないのか。

これらのテーマに関わる活動家や専門家は、生育歴が大きく関わり、被害・加害の陰に愛着の問題が見え隠れすることにも大方気付いています。正に家庭であり、地域社会に起因するのです。その背景には世代を超えて面々と引き継がれてきたジェンダーの問題も外せません。

この10年教育現場に突然に降ってきたような人権テーマであるデートDVやLGBTQ理解。人権そのものにつながるこれらの課題を解決に導くには、家庭内の愛着の問題、社会に深く浸透しているジェンダーの問題を、まず広く子供たちの養育、教育に関わる大人たちが知るところから始める必要があります。

参考資料

編　女性のためのアジア平和国民基金　平成 17 年（2005 年）
公開シンポジウム報告書「女性に対する暴力　－暴力を未然に防ぐために」
https://www.awf.or.jp/pdf/0146.pdf

編　女性のためのアジア平和国民基金　平成 16 年（2004 年）
支援者のためのマニュアル「DVと子ども－家庭という密室での暴力」
https://www.awf.or.jp/pdf/0180.pdf

デートDV防止教育の現状と課題

伊田　広行(いだ　ひろゆき) さん

立命館大学非常勤講師、DV加害者教育プログラムNOVO運営者

大学でジェンダー学を教える傍ら、DV加害者教育プログラムを実施している。令和2年度(2020 年度)から当センターの中学生向けデートDV予防啓発出前授業に同行。高校生対象デートDV予防啓発出前授業や男性向け講座での講師歴あり。

1 デートDV教育の必要性

中学・高校生にとって、ある社会背景に基づく諸側面に応答する教育が必要である。その社会背景とは、SNSなどのメディアの影響からの比較圧力、自己肯定感の低下、人間関係の複雑さ、受験・進学のストレスなどからの生きづらさやしんどさである。その負のエネルギーが、切れやすい、怒りを物にぶつける、いじめやDV的言動をするといった行動で外部に出たり、あるいは断れず(NOが言えず)我慢ばかりでしんどい、イライラしている、ゲームやネット視聴や恋愛など何かに逃げてしまうなどという形で表れている。

また、人を傷付けることを怖がり過ぎて、八方美人的なキャラクターを作っている子供も多い。そのため、「断ってもいいんだよ、本音を言ってもいいんだよ」ということを学ぶアサーティブな自己主張の教育が必要になっていると思う。我慢しすぎるのでも、攻撃的になるのでもない、アサーティブな主張の学びが必要で、そこでデートDV防止教育が重なる。

デートDV教育の必要性のもう一つは、実際にDV被害や加害の子供たちがいるため、また、将来経験する子供が多くいるため、そして親がDV的な関係になっている家庭の子がいるため、DV教育が必要だということである。また教師の側から見れば、これを通じて、ジェンダー平等教育、性教育、人権教育、いじめ予防教育も兼ねられるから意義があるという位置付けもできる。何か事件が起これば、学校としての管理責任が問われるという観点(安全配慮義務)からも、この教育をする必要性は言えるであろう。

なお、デートDVの中には性的な被害もあり、DV予防教育では、リベンジポルノや自撮り写真被害の話も入る。というのは、10代において、自撮り画像や盗撮などで児童ポルノ事件の被害者や加害者になっている率が高いという現状があるからでもある。児童買春・児童ポルノ禁止法が制定された平成 11 年(1999年)以降、令和4年(2022年)は、令和元年(2019年)に次ぎ2番目の多さとなっているし、加害者の4割以上が10代であった。

2 デートDV教育の現状

日本でのデートDV教育は、地域によって異なるが、2000年代後半から徐々に広がってきている。DVの認識が1990年代半ばから広がる中、平成 15 年(2003年)に山口のり子によって「デートDVプログラム実施者向けワークブック」の中で、若者のDV関係を「デートDV」と呼ぶことが提唱され、定着していった。そこで提唱されたデートDV教育が実施されて広がっていくのが2000年代半ばからである。

民間の取組団体等が増え、ネットワークもできる中、国もこの教育の推進に舵(かじ)を切った。児童や生徒が性被害に遭うのを未然に防ぐため、文部科学省は、年齢に応じた必要な知識を教える授業を、令和3年度(2021年度)からモデル実施し、令和5年度(2023年度)からは全国的に拡大しているところである。小学校高学年や中学生にはSNSに潜む危険性などを教えるほか、中学生や高校生には交際相手から受ける暴力、いわゆる「デートDV」を教材に加害者、被害者、傍観者にならな

いよう指導するとしている。「子どもの性被害を防ぐ教材」といっていたが、現在は「生命（いのち）の安全教育」という名称で、教材や指導手引きを作成している。

しかし、DV防止法で予防教育を義務化するように位置付けられているわけでもなく、法に基づき全生徒へ実施する予算措置が取られているわけでもないため、この教育の実施は一部の地域や学校にとどまっている。民間が継続的に行っていたり、行政に意識ある担当者がいるところでは行われているが、全く行われていないところもある。

デートDV教育の実施は、中学や高校では、おおむね3年間の在学中で1回だけで、50分ほど、ある学年、あるいは全校生徒を体育館などに集めて行うことが多い。一部では、クラス単位で行われている。内容としては、デートDVとは何かを種類や事例で示し、身体的暴力だけでなく、精神的暴力や嫉妬・束縛などもDVなので、こういうことをしないようにしようと呼びかける。また、背景には暴力容認意識やジェンダー意識があるので、そこを変えようと指摘し、対等、尊重、境界線尊重、ジェンダー平等の関係にしよう、裸の写真も撮ったり送ったりしないようにしよう、性的なことは同意が必要、何か困ったことがあったら相談しようということも含めた内容である。

私の場合、DVでない関係にするとは、相手の安全、自信、自由、成長を大事にすることであると説明し、また、二人は一体という「カップル単位」ではなく、相手と自分は別の人間だと意識する「シングル単位」の考えを強調するようにしている。相手と自分を一体化して捉えない、相手と自分の間には境界線があり、そこを超えて相手に干渉しすぎない、相手の課題には手を出さない、相手の自由・自己決定を尊重する、意見が違っていてもいい、相手の所有物になるのではない、コミュニケーションとしては攻撃的に言わない、我慢ばかりもしないで、アサーティブに「私はこう思うけれど、あなたはどう思う？」と言うように伝えている。

3 吹田市の状況

吹田市の中学生向けデートDV教育の特徴は、研修を受けた大学生がユースリーダーとして参加しているところや、事例をロールプレイ形式で示し、生徒にどこがデートDVか考えて発表してもらうところにある。ユースリーダーには、ロールプレイ作りに参加してもらった上で、当日は、ロールプレイを実演したり、アイスブレイクを担当したり、最後に授業をまとめ、自分や友人のDVに関する体験を話してもらっている。市の担当者と解説役の講師（私）を含む3者が役割分担をすることで、講座が一方的な講義型でなく、参加型で変化に富み、年齢の近い学生が話すことで、具体的に伝わるなどの効果がみられている。

吹田市には18の中学校があるが、全部で実施する予算をとり、徐々に実施校を広げてきており、中学校の先生たちの間にこの講座の意義の認識が広がっていることも重要な点である。

4 今後の課題

現在の出前授業の実施形態の不十分点、そこから考えられる課題としては、一つには1回だけの実施であるため時間が短く、どうしても一般的で浅いものになる傾向がある点である。事例も典型的で分かりやすいものになるため、様々なグレーゾーンレベルのものが実感的に紹介されない。したがって、自分とは関係ないことと捉えられやすくなる。性教育とデートDVとの関連も丁寧に説明できないために、実践的に有効となるには程遠いレベルと思われる。

また、DV関係にならないためには、カップル単位からシングル単位への考え方の変更が重要だが、この点もまだまだ多くの予防教育では指摘されていない。女子から男子へのDVも多いので、ジェンダーの簡単な説明でDV防止を語ることには限界があるということが共有される必要がある。

当面必要なこととしては、中学でも高校でも、もっと生徒の状態やニーズに即して具体的に実践的に何度も行う必要性がある。そのためには系統的に学年ごとに、基本から応用的なものへ、そして練習するように参加型で学べるカリキュラムの充実が必要である。その中には、別れ方の学びや具体的なシングル単位の関係、ジェンダーの視点、女性加害者もいること、嫉妬・束縛の対処、SNS・ネットの問題、写真・動画の問題、性的同

意の実践などについて、実際にされたときの断り方や対処法、同意の取り方、言い方や話し方までを学ぶ必要がある。

更に、友人間、親子間、先輩後輩関係、先生やクラブ指導者と生徒との関係、バイトや就職先との関係において、強圧的な支配関係はよくあるので、それに対処できるように、非威圧的な関係、共感の仕方などというDVとは逆の「良い方のイメージ」を学ぶことも大事である。アンガーマネジメントやアサーティブやＩメッセージといっても、実践的に身に付けるのは簡単ではないので、実践的に練習するような教育機会が必要である。不十分なのは、「対等・尊重の関係にしましょう」とか「暴力的になるのはやめましょう」「DVはだめです」「束縛はダメです」と抽象的な観念だけをいうようなものである。それは何かを伝えているようで実際的な効果は非常に弱いと思われる。

教師や親の態度自体が、実はDV的、強圧的コントロールの面があるのに、そこを自覚せずに、人権や平等や差別・暴力はいけないと言っているような状況こそ問題である。それでは子供たちは、そういうことをまた身近な人にしてしまうのである。

私は大学の講義において、学生自身による告白例を具体的に多様に紹介することで学生たちが問題を身近に感じ、自分達の問題だと理解度が高まるという経験をしてきた。したがって、中高生においても多様な具体例を提示し、主体的に学ぶ機会を多く作る必要があると感じている。マンガの恋愛はどう問題があるのか、パートナーの悩みや愚痴や意見に対して否定的に対応せずに聞くというのはどういう感じなのか、自分の意見の言い方はどうしたらいいのか、そういう練習の学びがいる。

また親の影響などもあるので、学校が面前DVの被害や虐待被害の発見の責任も担っていく必要があると感じている。更に親を啓発教育する責任もあると位置付けていくことが、子供のためにも必要であろう。行政・警察・医療機関に加えて、保育所や学校もそういう機能を持つことが「地域で連携して総合的にDVに対処していく」ためには必要なのである。

被害者・加害者に対する関わりは、初期的には学校が担うが、教員が全て担うのは事実上難しいので、外部専門家・外部の教育機関との連携体制の構築も必要であろう。加害者への対策は、通常の個人カウンセリングでは不十分で、DVに特化した加害者更正プログラムが必要である。単なるコミュニケーションの問題とかちょっとした行き違いではなく加害者の根本的な姿勢の変革が必要なので、学校外での教育の場の設置が望ましい。こういう全体を整備していく中に、学校のデートDV予防教育が位置付けられるべきであると私は考える。

ユースリーダー活動を通して学んだこと

髙木 良悟(たかぎ りょうご) さん
吹田市立男女共同参画センター 現役ユースリーダー

私は令和 3 年(2021 年)8 月から、ユースリーダーとして中学校出前授業に参加しています。この活動を知ったきっかけは、在学している大和大学からの案内があったからでした。当時は男女共同参画センターがどこにあるのかも知らなかったのですが、意外と身近な場所にあることに驚き、どんな事業を展開されているのか興味を持ちました。教師を目指している私にとって、生徒や先生方と接する機会は貴重だったので、積極的に参加したいと考えました。

参加にあたっては、本活動を行う意義や、デートDV防止に関わる知識を学ぶことなどを目的とした研修が行われています。私はデートDVという言葉こそ知っていましたが、その意味や、被害者加害者の実態は知らずに研修に参加しました。そのため、DVが起こる背景や被害の実態などを聞いて、自分にユースリーダーが務まるのか不安になりました。テーマが重く、まして多感な時期の子供にどう伝えれば良いか分からなかったからです。難しさや不安を感じたからこそ、生徒に届く言葉を選ぶことを大切にし、ユースリーダーのメンバーと授業を組み立てることができていると考えます。

活動において、特に工夫した点が2つあります。

1つは、生徒とのコミュニケーションです。授業では生徒がグループで意見交換する場面があります。多様な背景を持った中学生同士が活発に意見を交わす環境を作るには、私たちユースリーダーの声掛けがポイントです。初対面の生徒に対し自分から話しかけにいくことは勇気がいることであり、最初はどう話をすればいいのか分からない状態でした。そんなとき、先輩ユースリーダーの所作が大きなヒントになりました。

先輩は、生徒のグループの輪に挨拶して入ると、生徒と目線を合わせて「うん、うん」や「なるほど、そういう考え方もあるよね」というように、相槌(あいづち)を重点的に行っていました。むやみに話そうとするのではなく、生徒の意見を聞くことが重要であることを学びました。これは今でも実践しており、相槌を打って「いいところに目を付けたね」と意見を肯定するようにしています。

2つは、ロールモデルとして、自分だから伝えられることを伝えることです。授業の最後には、これからいろいろな人と関わり大人になっていく中学生に向けてメッセージを届けています。私は中学生と年齢が近いということを生かし、生徒が話を聞きながら将来を想像できるような話や言葉を選んでいます。

私は自分が不登校だった話をすることがあります。中学生と高校生の時に不登校で、学習の遅れや進学に関して大きな不安を抱いていた時期がありました。大学に入学してからは、その経験が大学の講義や学校インターンシップ等で生かせるようになり、悪いことばかりではなかったと気付きました。中学生時代に悩んでいたことを伝えることで、同じように悩んでいる生徒に独りではないことを実感してもらいながら、将来に対する一つの安心感へつなげたいと考え、この話をしています。不登校の話を聞いて、驚いたという反応もありますが、今は目標に向かって進んでいるという話に、「生徒が聞き入っていた」と先生方から感想をいただきました。

このような生徒との関わりや、ユースリーダー同士の話し合いの中で、ヒントを得て、そこから新たな課題を発見し、学び続けています。活動を通して、伝えたいことを多様な視点から分析し、対象に合った方法で発信する力が身に付いてきたと感じています。これからも、大学生という属性を生かした授業づくりを模索していきたいです。それから、自分にしか伝えられないことを伝えるという貴重な経験ができますので、皆さんにもこの活動への参加をお勧めします。

元ユースリーダー座談会 ～今振り返って思うこと～

大学生時代に吹田市立男女共同参画センターのユースリーダーとして活躍してくれた3人の元ユースリーダーに、当時を振り返ってもらいました。社会に出てみて感じることについても聞き、今後のユースリーダー活動へのメッセージもいただきました。座談会はオンライン会議ツールを用いて開催し、司会は、デートDV予防啓発出前授業やユースリーダー活動に携わってきた同センターの職員(松村)が務めました。

● ちょっとした関心から活動に参加

野村さん ： ユースリーダーになったのは母が応募したからです。僕からはアプローチしていません(笑)

ただ教職を目指していて、子供たちと関われる仕事やボランティアに興味があったし、授業ができることに加えて、多様性の時代の子供たちが「男女」についてどう考えているのか、区別しているのかどうか、また自身をどう認知しているのか気になったので、参加しました。

野村(のむら)さん

活動期間
H29 年(2017 年)8月
～R4年(2022 年)3月

小原さん ： 私も母から知りました。私は教育学部で、教育実習に行くことが決まっていたので、それと関連して何か得るものがあると思い、参加しました。

池田さん ： 私は吹田市と関西大学が連携して行う授業の中でデートDVを学び、この活動を知りました。大学の授業でジェンダーを学んでいたので興味があって参加しました。

● 始めた頃の不安

野村さん ： デートDVに対する知識、授業を組み立てる知識がない自分が、授業をやっていいのかなと思いました。

池田さん ： デートDVは、中学生にとって難しい内容だと思っていたので、「どうしたら自分事と考えてもらえるか」もそうですが、導入部分で「この人たちの話を聞こう」と思ってもらうことが大切だと考えていました。

小原さん ： デートDVの事例を伝えるロールプレイ(劇)での演技が難しかったです。迫真の演技をしたほうが、デートDVの問題がよく伝わると思いますが、恥じらいがあり、それをどう克服するかが難しかったです。

● 生徒の反応～うれしかったこと～

小原さん ： 初めて授業に行ったときは、熱心に話を聞いてくれて、問いかけに答えてくれることに驚きました。ロールプレイ(劇)の演技が「アカデミー賞レベルだった」と感想をもらったときはうれしかったです。

小原(おはら)さん

活動期間
H30 年(2018 年)8月
～R4年(2022 年)3月

池田さん ： 私も生徒から感想をもらえるところが良かったです。ロールプレイ(劇)に対して、リアクションがあると気分が盛り上がりました。中学生と接する機会がなかったので会話するのも楽しかったです。

野村さん ： 楽しく学べることは良いことです。「授業が楽しかった」「演技が上手だった」という感想を見たときはうれしかったです。ただ、それだけでなく、授業の中でどんな学びがあったのか疑問に思いました。授業を受けて意識がどう変わったのか知りたかったです。

司会 ： 令和2年度（2020 年度）から授業の前後にアンケートを実施し、授業を受けてどう意識が変わったかを確認できるようにしました。授業前は「デートDVの経験がない」との回答でしたが、デートDVについて学んだ後に「デートDVの経験がある」と回答する生徒がいます。自分や周りの言動が暴力かもしれないと考えるように意識が変わったことが伺えます。

● 生徒の反応～難しかったこと～

池田さん ： 中学生から意見を拾うときに、どう聞けば意見が言いやすいか、心を開いてくれるかが分からなくて難しかったです。

小原さん ： クラスによっては反応が薄く、授業冒頭のアイスブレイクから「しーん」とするところもあり、雰囲気作りの難しさを感じました。

池田さん ： 私は生徒に伝わったという手応えが最後までありませんでした。ふざけた回答が返ってきたり、「こう答えたらいいんでしょ」という雰囲気を感じることもありました。デートDVの問題を自分事と考えてくれているのか分かりませんでした。

池田（いけだ）さん

活動期間
R3年（2021 年）8月～
R5年（2023 年）3月

野村さん ：「こう答えたらいいんでしょ」と、“模範解答”をした生徒の顔をじっと見ていたら、ちょっと曇ったり、にやついたりすることがありました。模範解答しながらも「束縛ってダメなの？」「これも暴力なの？」と困惑していたり、自分や身の回りの被害や加害に気付いて心が揺らいでいる証拠だと思いました。暴力は駄目とか、男女が尊重し合うとか、対等な人間関係とか、普段から漠然と考えてはいると思います。それがどうしてデートDVにつながるのか考えられるように、深堀りしていきたかったです。でも、考える場を作ることができたのは良かったです。

司会 ： 模範解答が返ってきたとしても、考えるきっかけづくりをすることに、この授業の意味があるのではないかということですね。

● 授業の組み立て方

司会 ： 出前授業をより良いものにするために、改善案を出してくれましたね。

池田さん ： 50 分の授業では、伝えたいこと全てを伝えることはできません。何をどの順番でどのように伝えたら良いか考えることは難しかったです。私が活動した1年間でも何度か授業の構成について話し合いました。

野村さん ： 授業の構成は、ユースリーダー養成講座の中で既存のプログラムを軸にみんなで話し合って決めるということを毎年行っていました。一度決めた構成を実際にやってみて、やっぱりここは順番を入れ替えた方がいいと話し合うことが何回もありました。

僕は長く活動に参加していたので、既存のプログラムを改訂するのではなく、「中学生に伝えること」を一番に考えて、構成を根本から変更してもいいのではないかと思いました。でも、ユースリーダーの経験値の差や授業時間の制約、プログラム変更に対応する学校側の問題もあると考え、そこまでは難しいと思い、提案しませんでした。

● ユースリーダー活動での経験が生きていること

司会 ： 今の生活の中で、当時の活動や学んだことは生きていますか。

小原さん ： 私は市役所でひとり親医療の申請受付を担当しています。夫のDVが原因で、離婚はできていないけれど逃げている状態のお母さんからの申請が多く、自身の辛い状況を窓口でお話される際に、DVについての知識があることは自分の強みになっていると感じています。今は、DV被害を受けている方をどう支援していくかという“事後”の対応に関わっていますが、ユースリーダーの活動はそもそも被害者と加害者を出さないための、予防のための学びの取組ですので、少しでも貢献できて良かったです。

池田さん ： 私は化学メーカーの営業担当で、職場ではすごく年上の世代と関わっています。ユースリーダー活動の中で学んだ、かみ砕いてゆっくり話すことの大事さは、上の世代と話すときも同じで、今に生かせています。

一方で、ユースリーダーとして学んだからこそ、社内の人権研修では、時間も限られており、深く勉強することができないので、もやもやすることがあります。ただ、男女比が8 ： 2くらいの職場ですが、パワハラ・セクハラ研修などがしっかりされているので、一緒に働く上では、気を使ってくれていると感じています。

野村さん ： 僕は小学校の教員をしています。ユースリーダーの経験が生かされてはいますが、考え過ぎて、よく分からなくなることがあります。男女平等とか多様性とか言われてこなかった世代の親と、学校の言うことに、違いが生じる可能性があり、子供たちが戸惑うことがあると思います。

「暴力は駄目」とか「男女関係なく」ということを生徒にしっかりと考えさせないといけないとは思いますが、絶対的な正解はないので、どう伝えていけば良いか、自分にその技量があるとは言えません。でも、当時の経験は、人と関わる上で生きています。

そして、常識や当たり前を疑うことの重要性は、今の職場で役に立っています。

生徒たちから「なんでそうなの？」と素朴な質問をたくさん受けます。自分の経験や学んできたことをもとに説明するのですが、彼らは「なんでそうなるの？」と更に疑問を深めていきます。

素朴な質問の内容は、大人が当然知っているような常識や当たり前のこともたくさんありますが、納得するまで疑問を持ち続ける生徒たちと一緒に考えているうちに、ふと「本当にそうなんだろうか？」と、私自身も疑問に思うことが多くありました。

ただ何となく知っていることに疑問を持ち、考えることで自分の見えていなかったところが見えてくることがたくさんあることを、ユースリーダーの活動を通して考えるようになり、今も生徒たちから学び続けています。

彼らには、性別にとらわれてしまったり、「こうであるべき」「こうしないといけない」という考えではなく、「自分はこうしたい！」という気持ちを大切にしてほしいと思っています。そして同時に、自分自身も自分らしく生きていきたいと思っています。

● 人との出会いも中学校での授業も貴重な経験

司会 ： ユースリーダーをしていて良かったと思うことはありますか。

小原さん ： 私は教育大学に通っていて、多くの友人が先生を目指していたので、違う夢をもっている大学生と関わることができて良かったです。また、中学校に行く機会や市役所の方と関わる機会なんてほとんどないので、貴重な経験でした。市役所にこんな仕事もあるんだということを知れたのも良かったです。

司会 ： 集まるメンバーが、様々であることは、ユースリーダー活動の売りだと思っています。

池田さん ： 私も他大学の学生や市役所の方と関われたことが良かったです。また、私は教育学部ではなかったので、活動に参加しなかったら中学校で授業をする機会はなかったですし、社会人の今ではそんな機会は絶対にないので、貴重な経験でした。

野村さん ： 僕もいろいろな人と関わったり、考えることが楽しかったです。

教員志望でなくても、大学生でなくても参加してほしいです。授業を通して「生徒と一緒に何を考えるか」を一生懸命に考える時間は大切な経験だと思います。

● 今後のユースリーダー活動にエール！

小原さん ： こういう分野はNPOなどに任せきりにすることもあると思いますが、それを市でやっていることがすごいと思いました。松村さん（司会）を中心に周りも協力して、市全体で取り組んでいる感じがします。

野村さん ： 強いノウハウだと思うので、ほかの市区町村にも、この活動が広がればいいと思います。吹田市ってとってもいいなって思います。この活動を続けてほしいと思います。

池田さん ： 自分が中学生のときにもこういう授業があれば良かったと思っていたので、これからもこの活動が続けばいいなと思います。若い世代から予防していくことは、DVを根本的になくすことにつながっていくと思います。

小原さん ： 活動に参加する前は、ユースリーダーって意識高い学生ばかりなんじゃないかと思いましたが、実際は意識が高いというよりも、学びたい、これから学んでいこうという学生が多くて、なじみやすかったですし、職員さんが優しくしてくださったので楽しくできました。

今のユースリーダーも、楽しく、後悔しないように、長く活動してほしいです。

池田さん ： 友達とは話しにくいセンシティブな話ができる場があって良かったです。ユースリーダーだった頃は、男女共同参画やジェンダーについて考えることが普通だと思っていましたが、社会に出てそうではないと感じています。そういう話ができる人を大切にしてほしいと思います。また、興味がある部分をしっかり勉強して、つながりを広げることを大切にしてほしいです。社会人になるとなかなか新しいことに手が出せないので、興味のあることを後悔なく学生時代にやってほしいと思います。

野村さん ： 考えることが楽しいと思える場でした。社会の課題について、身近に漠然と感じていることを改めて考えることができる場です。

中学生にとって、男女の関係の話は「考えるのってタブーじゃない？」「恥ずかしいんじゃない？」ってなりがちですが、しっかりと考え、大切なことに気付くきっかけになったと思います。僕たち大人が学ぶこともあります。学ぶことが楽しいと思える場でした。みんな参加したらいいと思います。

司会 ： ユースリーダー活動へのお誘いのメッセージがたくさん出ました。今回聞いた話を始め、先輩ユースリーダーたちの思いを、今の、そして未来のユースリーダーにバトンをつないでいき、このプログラムが進化しながら続いていけばと思います。本日はありがとうございました。

8 今後に向けての課題

（1） 時間の制約

男女共同参画センターの出前授業を受講できるのは基本的に中学校3年間で1回 50 分間のみ※であり、伝えられる知識には限りがあります。しかし、若いうちからデートDVについて学ぶことは、意義があると考えています。限られた時間の中でも、授業が理解されやすく効果的なものとなるようロールプレイやワークを取り入れる工夫をしています。

どの分野でも知識の定着には繰り返し学ぶ必要があり、デートDVについても同様だと考えます。基本的なものから応用的なものへ、発達段階に応じた学びは理想的です。学校との連携については考えていかなければならない課題です。

また、カリキュラムの都合等で当センターの出前授業を実施しない学校へのフォローも課題です。令和6年度（2024 年度）からは、出前授業で生徒に配付している啓発リーフレットを、出前授業を実施しない学校へも配付する予定です。

※同じ学年への再度の出前授業は行っていません。また、カリキュラム等の都合により、出前授業を希望しない学校があるため、1 度も受けない生徒もいます。

（2） 自分事と捉えてもらうための工夫

あからさまな暴力の話になると、生徒たちは自分に関係のないことと思ってしまいます。暴力は、実際はグレーなものが多いです。身近な暴力の例として見せるロールプレイシナリオは、大学生が主となって考案しています。題材は定期的に見直し、時代に合ったものにしています。

交際を他人事と考えている人もいます。そのため授業の冒頭に、交際はしてもしなくてもかまいませんが、今から学ぶことは、恋人間だけではなく、広く人間関係における話であることを伝えています。また、身近で親しい人との間の暴力は、親子関係、友達関係、先輩後輩など様々な人間関係において存在することについても言及しています。

授業を受けて人間関係が面倒になったという感想をまれに見ます。繊細なテーマであるため、限られた時間の中でも丁寧に伝える必要があります。

（3） 大学生ユースリーダーの養成

出前授業の実施校が増えている中で、ユースリーダーの登録者数は減少傾向にあります。活動の意義を理解し、積極的に参加してくれる学生も、数年で大学を卒業し、活動から離れることになります。

ユースリーダー募集と事前研修を兼ねた養成講座を毎年開催しています。ユースリーダーとして活動している学生や、当センターに職業体験に来た大学生に、学生が参加しやすい開催時期や開催形態、学生に届く周知方法について意見を聞き、講座企画の参考にしています。

中学生に知識を届けるだけでなく、彼ら自身も、活動を通じて学んだことを今後の人生に生かせると考えます。ユースリーダーの養成は若年層への啓発ともなります。近隣の大学と連携して取り組むなど、ユースリーダーの確保において新たな取組が必要です。

9 補足 ： 令和5年度（2023 年度）の取組

この調査研究は、平成 24 年度（2012 年度）～令和4年度（2022 年度）の取組を対象にまとめていますが、補足として令和5年度（2023 年度）の活動の中から紹介します。

（1） ユースリーダー養成講座の企画を委託から直営に変更

令和5年度（2023 年度）からの新しい試みとして、ユースリーダー養成講座の実施手法を見直しました。

それまでは、特定非営利活動法人湘南DVサポートセンターに、養成講座の企画と実施を委託していましたが、10 年以上継続して取り組んできた経験を生かし、吹田市立男女共同参画センターの職員がユースリーダー養成のための講座を企画しました。デートDV予防啓発に必要な知識を得るためのテーマを複数設定し、それぞれのテーマに沿って近隣の講師を招き、実施しました。

なお、中学校への出前授業は、引き続き、伊田先生とユースリーダー、センターの職員で実施しています。

（2） 中学校への案内の強化と令和5年度（2023 年度）の実績

開催校数 14 校（15 学年）、延受講者数 2,239 人

中学校への出前授業の申込案内は、従来から年度初めに吹田市立中学校全 18 校に対して行っていましたが、令和5年度（2023 年度）は、各学期の始めにも行いました。各中学校への働きかけを積極的に行ったことで、多くの出前授業の実施につながりました。18 校中 14 校での実施は、過去最高の実施数です。

（3） ユースリーダー養成講座実績

講座名 ： ユースリーダー養成講座2023～デートDV、自分の言葉で伝えよう～

日時 ： 令和5年（2023 年）8月 26 日（土）午前 10 時～午後 4 時、27 日（日）午後 0 時 50 分～4 時 30 分

場所 ： 吹田市立男女共同参画センター

受講者数 ： 7人

自身の学びのための受講が多く、ユースリーダーに登録したのは受講者のうち1人でした。その後もユースリーダーのなり手を探し、追加登録者には簡易養成講座をすることで対応しました。

（4） 出前授業の評価についての教員向けアンケート

当センターの出前授業について、学校現場でどのように認識されているかを確認するために、令和5年度（2023 年度）は教員へのアンケートを行いました。

回答数 ： 10 校（対象 14 校）

男女共同参画センターの出前授業の実施に至ったきっかけや理由

- 昨年度の3年生も実施していたため。また、中学3年生に必要な内容だと判断したため。
- いずれかの学年でできないかと話があり、2年生の学年がこれまでジェンダー教育などを深く行ってこなかったため、良いきっかけになればと思った。交際が始まりだしているので、大きなトラブルが起こる前に話を聞かせたかった。

・ 生徒に馴染(なじ)みがあり興味関心を引くような内容、また知識を身に付けておくことによって、自分や周りの人たちの身を守ることができるような内容であったため、再度実施することになりました。
・ 管理職に案内されて、中学3年生は交際などに興味を持つ生徒が多くいるであろうことから実施に至りました。特に、実施前にはSNSトラブルもよく発生していたことから、内容も合致していると判断できました。
・ 前回の出前授業が、生徒にとって有意義なものだったと感じたから。
・「デートDVの授業をするなら男女共同参画センターの出前授業が良い」と先輩から聞いていたから。
・ 最近特にデートDVのトラブルを耳にすることがあり、暴力は身体や言葉だけではないことを生徒たちに分かってもらうため。
・ デートDVに関する学習をするにあたって、外部の方からの知恵をいただき、生徒への良い刺激になればと思い、検討しました。

再度、男女共同参画センターの出前授業を利用したいと思いますか？その理由は？

また出前授業を利用したい

・ 親身かつ熱心に取り組んでくださったから。
・ 今の中学生に必要であり、今のうちに学んでおくことによってこれから何年も自分の身を守ることができる内容。授業内容に中学生の興味関心を引くような様々な工夫が施されている。生徒にとってとても良い経験になったと感じたため、再度実施する機会があれば実施したいと考えています。
・ センシティブな内容でありながら、生徒が生きていく上で必ず経験する問題を丁寧に授業していただけるため。
・ 生徒の生活の中で問題が起きやすい事柄で、自分事として捉えられる内容だからです。
・ 教師とは違う角度から話してもらえるから。
・ 現役の大学生からの言葉には特に、生徒が興味を示しており、親近感のようなものを感じているように見えたから。
・ すごく丁寧にやっていただいて，生徒もよく話を聞いていたから。
・ 生徒だけでなく、先生自身も指導に関する参考になり、今後も実施したいと考えます。

分からない

・ 専門の方に話を聞かせていただくことはとても有意義。ただ、1時間単発だと、時間が短くあまり深いところまでの理解ができないような気がする。前後の学習も含めて計画してから実施するべきだと思った。
・ 生徒にとってイメージの湧きやすいロールプレイもありますが、集会形式で一斉に実施する場合、生徒の活動が制限されるため。今年は teams による教室でのオンライン開催をしていただいた。各教室に一人講師が配置される形式であれば、とても良いように感じた。

編集発行　令和7年(2025 年)2月
吹田市立男女共同参画センターデュオ
〒564-0072　吹田市出口町 2-1
TEL　06-6388-1451
FAX　06-6385-5411

この報告書は 500 部作成し、1 部あたりの単価は 391.6 円です。

R70
VEGETABLE OIL INK
リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
この印刷物は、環境にやさしい紙とインキを使用しています。